

文・写真 寺川 裕子(NPO法人 里山倶楽部)

NPO法人里山倶楽部が、1995年頃から薪炭林として管理を行っている里山（約1ha）で、クヌギとコナラが主体の典型的な雑木林である。管理放棄された当初は一面ネザサの荒れた森林であったが、約5年かけて皆伐し、萌芽と実生による更新、一部に苗木植樹を行った。その後は草刈り等の管理を継続し、約30年を経た現在は薪炭利用のために2度目の伐採を開始している。

明るい林床には、モチツツジ・ヤマツツジ・ムラサキシキブ・ササユリ・ナルコユリ・キンラン・ウラシマソウ・マムシグサ・コウヤボウキなどの植生が見られる。また山頂に設置した自動撮影カメラではイノシシ・タヌキ・テン・アナグマ・ノウサギの生息が確認されている。

隣接する棚田も里山倶楽部で管理しており、アカハライモリやタイコウチ、ミズカマキリなど希少な水生生物を観察することができる。薪炭林の落ち葉堆肥で無農薬の米づくりを行うなど、里山と農地が有機的につながった貴重な自然環境となっている。



春先の薪炭林



薪炭林に隣接する棚田

③① 美多彌神社シリブカガシ社叢林（堺市南区鴨谷台）

文・写真 木村 進(堺植物同好会)

堺市の泉北ニュータウンの一角にある美多彌神社には約8,000㎡の社叢全体に、シリブカガシという比較的珍しいブナ科マテバシイ属の樹木が生育しており、1973年3月に大阪府の天然記念物指定を受けている。この社叢林は1971年頃にニュータウン造成により大部分が破壊されることを知った大阪市立自然科学博物館（当時）の瀬戸剛学芸員が、大阪市大の吉良教授や三木教授と相談して、保全活動に取り組み、地元の堺植物同好会も協力して現地の調査を行い、大阪府企業局と協議を重ね、道路計画を大幅に変更することで、こ約2/3が保全され、何とか林相を維持することができた。その後、堺植物同好会では、3回にわたって毎木調査を行い、その変遷を見守っている。1991年には252本あったシリブカガシの一部は癌腫病に感染したこともあって、2002年には197本に減少したが、保護対策が行われ樹林全体としては順調に成長した。2016年には167本と本数はさらに減少したが、樹高や胸高直径ともに大幅に増加した。ただ、大木が数本枯死し、やや荒れた状態の場所もあり、今後も変化を見守っていききたい。

美多彌神社のシリブカガシ林
(2022.12.22)開花・結実期のシリブカガシ
(2021.9.20)